

## 第32回 MASセミナー

建築家が考える建築の未来

「5G時代の建築」

日時：2019/11/23(土)

講演：14:00~16:00

今回は、「5G時代の建築」「建築家が考える建築の未来」と題して、今日の技術革新が進んでいった先の社会を見越し、建築や都市がどう変わっていくのか、また変わらないものは何かを御一緒に考えて行かれたらと思います・・・

18世紀に蒸気機関の発展と共に始まった第一次産業革命に続く、電気・電力が伴った第二次産業革命、デジタル技術の進展に伴う第三次産業革命、そしてインダストリー4.0のキーワードと共に語られる第四次産業革命の現代、すなわち人工知能(AI)・ロボット技術・IoT(Internet of Things)・生物工学・ナノテクノロジー等々と言った多岐に渡る分野の新興技術革新を受けて、世の中の仕組みが大きく変わろうとしている現実を前に、変わって行くものは何か、変わらぬものは何か、建築家が考える建築の未来について語り合えればと思います。  
> また、狩猟社会(Society 1.0)・農耕社会(Society 2.0)・工業社会(Society 3.0)・情報社会(Society 4.0)と言った流れの延長にICTやIoTなどのデジタル革命により社会の在り様を再定義しようとするSociety 5.0(ソサエティ5.0)と言った文脈の中で、建築の在り方を考えて見るのも面白いかも知れません。

### 5Gの時代と建築(家)

かつて本を読むこと、多くの知識を持つことがエリートの条件だったことが、洪水のような情報化の時代の中で終焉した？という話がある。更に5Gの時代には今までにないスピード感を伴った通信の時代が来ると云われる。ますます重要になることは自身という特殊な立場を自覚して独自の道をきわめることに専念することだ。建築家の家(カ)とは専門性のうえに個性を認めた言葉だと僕は解釈している。情報をいかに自身に役立てるかには既に宿している自身を見つめる処からはじまる。



今井 均

### 5Gを越えて

これまでの人間の歴史を見ても、科学の発見から応用と展開までの「不可避性」と、そのスピードは明白な事実。我々は、当然とこの恩恵を受けている。人身を管理され、環境が破壊されても。馬鹿でも利口でも、人間はこの流れを変えられない。そして人類の破滅に至るのか、あるいは際どい所で、人間性を担保出来るのか。その戦いはすでに始まっている。そこにあるのは、カネやモノによる安心ではなく、人間の存在意味を問う神経戦である。



大倉富美雄

### 「5G時代の建築」



### 建築の未来を考える・・・

産業革命以降、機械文明の進展の中で建築や街の姿も大きく変貌を遂げた。ここでは、効率化をよしとする機械文明の宿命といえる原理原則のもと、建築や街の在り方、ひいては人間の営みそのものが歪められて来たのかも知れない。機械文明の進展により虚ろになった人と人/人と自然の関わり等、情報革命といわれる今日に新たに広まろうとする技術を、人に寄り添う形で活かす事によって人間本来の生活とその為の空間を取り戻せないか・・・建築の未来を考えてみたい。



武田有左

### 「人類と地球の未来」

「近代」を俯瞰してみると、便利で快適な生活と引き換えに、人口爆発、地球温暖化、格差といった問題を生み出している。価値観を変えなければ、地球上の生命が滅亡に瀕しているかもしれない。変えるべきものは「人間中心主義」という、果てしない欲望と自らの安全・快適さを追い求める、飽くなき姿勢なのではないか。5G時代の技術は、より大きな全体性を俯瞰する能力や認識を、多くの人に与えてくれるかもしれない。



田口知子

### 「情報速度の最適化は？」

20世紀がスピードを競う時代だとすると、21世紀は安全を考えセーブする時代。自動車はスポーツカーからEコンパクトに移り、飛行機は音速コンコルドから中規模な滑走距離の短い機種が好まれている。これからは地球環境への安全性も真剣に考え行動する時代。5Gや8Kと技術革新の先にあるものが、人類の安全であるといいのだが。情報速度の暴走が起こるのか、リスクの方が気になって仕方ない。



宮田多津夫

### 最初に考える人は誰？

Society 5.0「同時多接続」「低遅延」人々の暮らしを一変させる可能性・・・わくわくする反面、何か釈然としない？デジタルデータで音楽を聴くと味気ない。耳に届かない高音域と低音域をカットしてしまうからだ。目に見えないけど皮膚感覚で感じる空間の創造に建築家は関わっている。サイバー空間上に現実世界の空間が再現される。でも、少し考えてほしい。5Gの利便性を享受する前に。最初の一步を踏み出すのはいったい誰なのか？



村上晶子

### グローバルに5Gを期待したい！

グローバルという言葉がある。グローバル(地球化)とローカル(地域化)を合わせた造語である。グローバルにより、同じような近代都市ができてしまい、その反省からグローバルの視点が求められている。都市のスポンジ化が進む中で、建築設計は減築、改修、増築、新築が混合する編集設計となってきた。課題は個々のチャレンジを、如何に伝え経営的に成り立たせうるか、である。個々の魅力が手を取るように世界に発信できるツールとして役立てば、5Gなど技術革新はウェルカムである。



連健夫